

シンポ開催

建設業から参入10年

地方創生に向け連携促進を

農水省と建設トップランナー倶楽部が2月6日、省内の講堂で「建設業と農林水産業の連携シ

ンポ」を開催した。冒頭、農水省の皆川事務次官が挨拶し、「地域創生は国の大きな課題だ。地域に根差している建設業と農林水産業を有機的につなげた

見えてくるのではないかと期待している」と述べた。つづいて建設トップランナー倶楽部代表幹事の米田雅子氏が挨拶に立ち、「人口減少社会では、複業化で地方産業を創出することが必要、業種を超えて地方創生に取り組み」と呼びかけた。

北海道の幌村建設は10年前に農業法人を立ち上げた。現在は80棟のビニールハウスで様々な品種のアスパラガスを生産、販売し差別化を図っている。当時ノウハウを持った技術者がいなかったが、北海道大学や研究機関と連携して社員のスキルを向上した。平成20年に経産省、農水省の「農商工等連携事業計画認定」を受け、23年には北海道知事から「新分野進出優良企業表彰」を受け、多くの見本市・マッチングフェア等に参加し販路を拡大



様々な事例発表が行われた

シンポジウムで先々に進む指針が行った。

農水省や経産省、国土交通省の審議官らがア

見本市・マッチングフェア等に参加し販路を拡大

した。

その他、農業参入事例として宮城県の高松組が「オランダ型温室水耕トマト栽培と木質バイオ利用」を紹介。JGAP認証農場を取得、また暖房費削減の為4年前に地元森林組合と連携し木質チップバイオマスボイラーを導入した。